

＜ 跡見学園女子大学 × 会津若松市 ＞ パートナーシップ協定締結 連携強化活動 会津若松への「アカデミックツアー」を実施 ～ 跡見生開発の現地旅行商品“人物観光”を体験 ～

実施日程：4月13日（土）～14日（日）

跡見学園女子大学(文京キャンパス:東京都文京区大塚1-5-2/新座キャンパス:埼玉県新座市中野1-9-6)は、2012年7月に会津若松市と締結したパートナーシップ協定を記念し、4月13日(土)～14日(日)に本学の学生や卒業生が会津若松を訪れる特別企画ツアーを実施します。このツアーは、「八重の桜と本物の会津の精神文化を学ぶ旅」と題し、NHK 大河ドラマ「八重の桜」のロケ地や会津若松の観光名所を巡りながら、本学の学生が開発した旅行商品のコンテンツ「人物観光」を体験します。また、本学の山崎一穎理事長と山田徹雄学長が同行し、会津藩の教育機関「會津藩校 日新館^{※1}」の宗像精館長との特別対談を開催し、観光ツアーとは一味違う「アカデミックツアー」となっています。

本学では、(株)日本旅行(本社:東京都港区、代表取締役社長:丸尾和明)と会津若松市観光課、会津バス観光A・T・S(株)との産官学連携で福島県会津若松市への観光誘客を目的に、本学の観光マネジメント学科の学生が考えた旅行商品『現代の八重に会いに行こう!』を昨年12月25日より販売し、100名以上の方がツアーに参加されるなど好評を博しています。この旅行商品は、会津若松の厳しい時代を強く生き抜いた女性「新島八重^{※2}」(ハンサムウーマン)に象徴される、会津若松の女性の強さを受け継ぐ“現代のハンサムウーマン”との交流を特徴としており、人物の魅力を日本で初めて旅行商品とする「人物観光」として開発しました。2013年4月よりパンフレットを新たにし、これまで1件だった宿泊先を19件に増やすなど更なる価値向上に努め、販売を継続しています。

今回の「アカデミックツアー」では、“現代のハンサムウーマン”の一人で、150年以上続く歴史ある末廣酒造の女将として活躍する新城希子さんと交流します。この商品開発に携わった学生も今回のツアーに同行し、今後新たな商品開発を行うための、観光素材の掘り起こしを行います。また、本学の山崎理事長と「會津藩校 日新館」の宗像館長との対談は、「時代を先駆けた教育者新島八重、跡見花蹊と会津の教育文化」というテーマで開催し、会津の精神文化として受け継がれる強くて逞しい生き方を学びます。

今後も、本学では会津若松市との連携を強化し続けて参ります。

本取り組みに関して、ぜひご紹介・ご取材をご検討下さいますようお願い申し上げます。

※1

享和3(1803)年、会津藩に設立された文武の両教科を教授する総合学校。白虎隊の学び舎。現在は、宿泊施設や道場、会議室として使用されている。住所:福島県会津若松市河東町南高野字高塚山10。

※2

現在の会津若松市に生まれ、幕末から昭和初期を生きた女性。同志社創立者の新島襄の妻として知られる。戊辰戦争の際は銃を持って戦い、「幕末のジャンヌ・ダルク」と呼ばれた。激動の時代を「ハンサムウーマン」と呼ばれるほど、エネルギーに生きた。2013年のNHK大河ドラマ「八重の桜」では主人公・新島八重の生涯を綾瀬はるかさんが演じている。

◆大学に関するお問合せ先◆

跡見学園女子大学広報 宮田、鈴木

TEL:048-478-3333 FAX:048-478-3111

■跡見学園女子大学と会津若松市のこれまでの取り組み

会津若松市とは、2011年9月に実施したインターンシップでの会津若松市長への風評被害対策や観光発展のための提言を皮切りに、同年10月の大学祭「紫祭」^{ゆかりさい}での会津若松の観光PRや、会津若松市長へ大学祭での収益金を寄付するなどの活動を行ってきました。

2012年1月には学生が再度会津若松市を訪問し、女性向け旅行商品化に向けた現地視察と商品開発会議を行い、女子大生視点での観光素材の発掘や受け入れ態勢の改善を会津若松市長に提案しました。これを機に、「女子大生が考える会津若松観光ツアー開発プロジェクト」が始動。7月には、更なる協力関係を構築すべく「跡見学園女子大学・会津若松市パートナーシップ協定」を締結しました。11月に開催した大学祭でも 同市と連携しながら会津若松観光PR・物産展を実施。12月15日には、同市の仮設住宅に暮らしている被災者に、学生が全国から届いたクリスマスメッセージとプレゼントを直接お届けすると共に、本年の「紫祭」で集まった義援金を同市に寄付しました。また、12月25日より学生が考えた旅行商品「現代の八重に会いに行こう！」を関東・甲信越地区の日本旅行グループ店舗にて販売開始しました。

2013年3月20日には、本学で会津復興支援シンポジウム「新島八重と跡見花蹊」を開催。会津若松市長や“現代のハンサムウーマン”である鈴木素子さんが対談し、300名を超える来場者に会津若松の魅力を伝えました。



2011年10月紫祭での観光物産展



2012年7月パートナーシップ協定締結



ハンサムウーマンとの交流

■プロフィール（※敬称略）

・宗像 精(むなかた ただし)



会津藩校日新館館長

1933年生まれ。中学校校長、教育委員会教育長を歴任し、現在は、会津藩校日新館において、館長として道徳心・倫理観を主にした後世の指導にあたっている。昔、会津武士の子どもが学んだ日新館の教えに基づき、自身の経験を踏まえながら、誠実・忍耐などを含む「日本の規範」、論語や儒教の教えを例に出して、昔の日本の精神性の高さや日本人のあるべき姿を広く伝えている。

・山崎 一穎(やまざき かずひで)



跡見学園理事長

1938年生まれ。1962年早稲田大学教育学部卒業。1970年早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。博士(文学)。1978～1989年、1998～2006年 跡見学園女子大学学長。2003年～2006年 同大学短期大学部学長(兼任)。2007～2012年 跡見学園中学校高等学校校長。2009年10月学校法人跡見学園理事長に就任。長年に渡り女子教育に従事している。森鷗外記念会会長。森鷗外記念館(津和野)館長。

・山田 徹雄(やまだ てつお):コーディネーター



跡見学園女子大学学長

1947年生まれ。1971年早稲田大学商学部卒業。1975～1977年 DAAD 留学生としてエアランゲン・ニュルンベルグ大学に学んだ後、1979年早稲田大学大学院商学研究科博士課程単位取得満期退学。博士(商学)。同年跡見学園女子大学文学部専任講師に就任。1982年同大学同学部助教授、1988年教授、2006年副学長を経て、2010年跡見学園女子大学学長に就任。2011年学校法人跡見学園常務理事に就任。